

農夫の妻 (1928)

THE FARMER'S WIFE

メディア 映画

ジャンル コメディ

製作国 イギリス

色彩 B&W

時間 98分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

アップルクラス農場の主、男やもめのサミュエル・スイートランドは、一人娘を嫁に出し、寂しい思いをしていたが再婚を決意。住み込みの女中アラミタに相談を持ちかける。彼は、貴族の未亡人、未婚の農場主、女性郵便局長、それに居酒屋の女主人の名を上げるが、アラミタは不服そう。実は彼女は心ひそかにサムを想っていたが、まさかそれを口に出すわけにはいかない。サムは一本調子の男臭さで初めの三人に求婚するがいずれも断られて意気消沈し、最後の女主人には結局何も切り出せずにすずごく帰宅。そこでようやく“灯台下暗し”、美しく働き者のアラミタの存在に気づいたのだった。ヒッチ御大もこんな小市民劇を撮っていたのかーという軽い恋愛コメディだが、部分的に後のスリラーの巨匠たる天才的ひらめきも見せる小品。それは、コミック・リリーフで貢献するG・ハーカーの作男アッシュがパーティ用の料理を盗み食いするーといった描写で主に発揮され、大変ユーモラスなものだ。サムが候補者に立てる女性たちがいずれ劣らぬ(?)ブスとデブ、おまけにヒステリー(無声映画の有り難みを実感)というのが図式以上にスゴい、舞台劇の映画化。

【クレジット】

監督	アルフレッド・ヒッチコック	Alfred Hitchcock
原作	イーデン・フィルポツ	Eden Phillpotts
脚色	エリオット・スタナード	Eliot Stannard
撮影	ジョン・J・コックス	John J. Cox
出演	ジェームソン・トーマス	Jameson Thomas
	リリアン・ホール＝デイヴィス	Lillian Hall-Davis
	ゴードン・ハーカー	Gordon Harker